

「地方議会における政策サイクルと評価モデル」研究会 中間報告

林 晴信

第1回研究会 5月24日 コレド日本橋5F

- ① 江藤俊昭座長あいさつ
- ② 各議会からの取組み報告

可児市議会・会津若松市議会・芽室町議会・大津市議会・飯田市議会・西脇市議会・小諸市議会
那覇市議会

- ③ 次回日程について

第2回研究会 7月27日 会津若松市議会 会議室

- ① 江藤俊昭座長あいさつ
- ② 会津若松市議会における政策サイクル実践報告
- ③ 政策サイクルについて（中村健・早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

第3回研究会 8月24日 コレド日本橋5F

※両眼手術のため欠席

■報告・所感

参加メンバー表を見て最初に思ったのが、「そうそうたるメンバーのところに行くんだな」だった。

この研究会の主旨は、「日本のモデルを作ろう！」を合言葉に、北川正恭早稲田大学名誉教授を顧問に、また江藤俊昭山梨学院大学教授を座長に迎え、議会活動と地域経営が連動する「地方議会における政策サイクルと評価モデル」の構築を目指し、研究会は立ち上げられたとのことで、その為に議会改革分野のトップランナーばかりが集められた（或いは集まった）のだろうと理解している。私自身は参加を逡巡していたのだが、江藤教授からの推薦もあり、参加を決めました。

この研究会の目的にはこうあります。

「本研究会の目的とするところは、議会改革を断片的なものではなく、住民福祉の向上にどのようにつながっているか、どのようにつなげていくか、連動させることにあります。具体的には、議会改革の到達点を明確にして更なる議会改革につなげ、また、議会活動と地域経営とを連動させることです。将来的に、地域経営の軸となる総合計画の策定に議会がどう関わっていくか、どのようにかかわることができたのか、行政とは違う視点から、議会が政策決定にどのように関わり、実現することができたのか、議会自らが評価できるモデルの構築を目指します」

要するに、①住民福祉の向上のための議会の政策サイクル、②議会運営における客観的な自己評価基準、③議会からの取り組みによる住民福祉の向上などの「地方議会におけるモデル」を作ろうとしている。

正直、西脇市議会では概念として持っていない部分だとも感じた。しかし、少しずつとはいえ、概念としては無いけれど、政策サイクルにつながる取組み、評価につながる取組みなどは始まっているとも思う。そこをきちんと整備していけば、西脇市議会でも十分取り組めるのではないかと考えている。

第1回研究会では、各市議会10分程度での報告とのことだったが、トップバッターの可児市議会からして約2時間。各市議会からの報告だけで、1日が終わってしまった。しかし、誰かが言っていたが、「これだけの市議会を視察に行こうとしたら大変だが、ここに来れば一堂に会しているので、なんとお得なんだろう！」言い得て妙である。私もそう思った。各市議会の報告は大変参考になりまた刺激にもなったが、ひとつだけ気になったのが、芽室町議会広瀬議長からの「あまりにやり過ぎて疲労感が議員にも出てきた」という言葉だった。議会改革度ランキング1位の芽室町議会だが、無理をし過ぎたんだろうか。確かに、議会広報紙を毎月発行するなど先進的な取組みは有名だが、町議会（報酬の低さゆえにほぼ全員に本業が別にあるはず）で、仕事をしながら、議会との両輪でフルに活動するのはなかなかハードだろうし、無理も出てきたのかも知れないと思った。

第2回研究会では、会津若津市議会への視察だった。

政策サイクルのモデルを作る上で考えれば、会津若松市議会の取組みは議会報告会を起点とした政策提案型議会の一つの完成形でもあるので、江藤教授の提唱する「住民自治の根幹は議会である」という考えにも合致し、今回の視察となったのだろう。

しかし、大津市議会の清水氏は異を唱えた。

全ての地方議会を一つの型にはめ込むのは無理があると。

大津市議会の目指すのは政策立案型議会、立法機関である議会は政策条例を作ることによって住民の福祉の向上に寄与するのが本来の姿である、という。また議会報告会は比較的小さな都

市では有効だが、大きな都市（大津市は人口約 34 万人の中核市・会津若松市は人口約 12 万人）では、むしろ効率が悪くなる。住民の意見を吸い上げるのは普通の議員活動で行っているはずなので、議会で議論を重ねて条例制定を目指すのだ、という。

確かに、私も人口 5 万人の地方議会の取組み、10 万人の地方議会の取組み、50 万人の地方議会の取組み手法は違って当たり前のような気がする。しかし、「議会報告会あり、条例提案せずに市長に政策提案のみ（やや受動的）」と「議会報告なし、条例提案をする（能動的）」という 2 極化でする話でも無いと思う。その地域に適したやり方で、また課題によって、条例提案するのか政策提言で行くのか、決めていけば良いのではないか、と思う。西脇市議会としては「議会報告会を起点の主軸としながら、課題によって、政策提言という手法を取るのか、はたまた政策条例立案をするのか、考えた上で最適な手法を選択してゆく」のがいいのではないか、と考える。

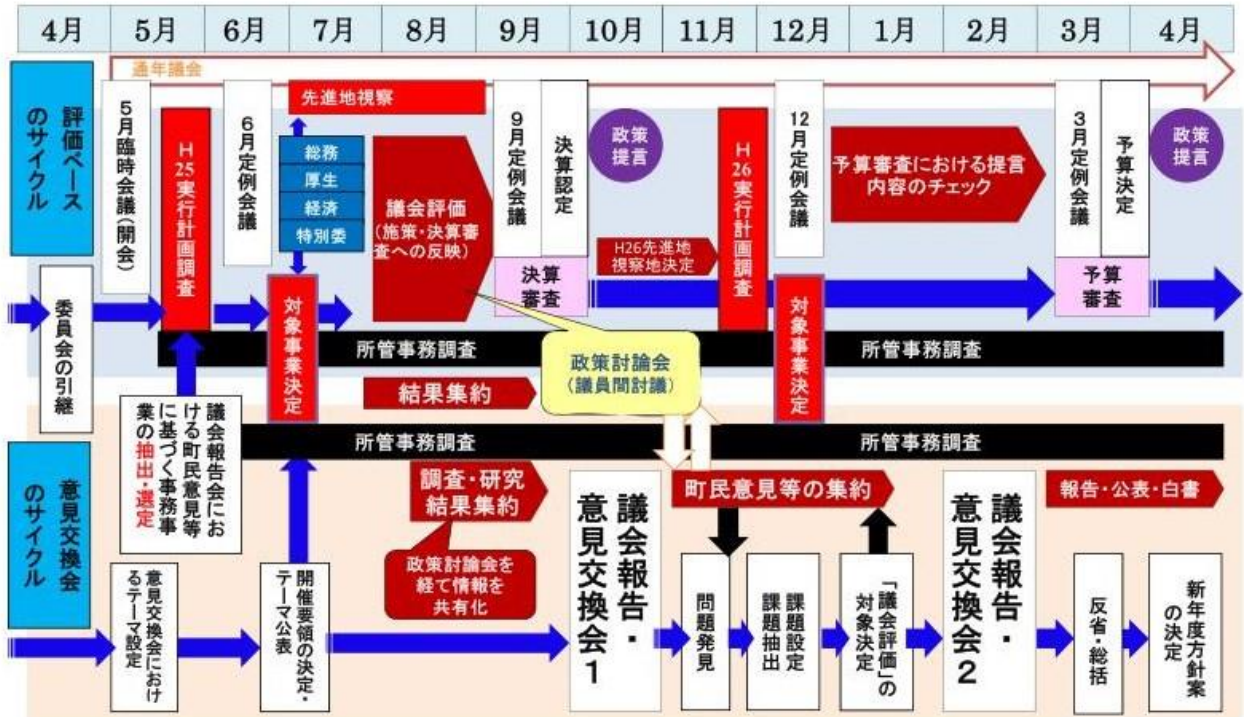
また、会津若松市議会や大津市議会また他の先進議会の良い点を学びながら、西脇市議会にフィードバックしていきたいと考えている。すでに、9 月定例会で実施した決算審査前の議員間討論によって質疑質問の背景などの共通認識をする手法や現在提案している、政務活動費支給条例の改正案や議会基本条例の図書室の充実についての改正案などは、会津若松市議会や大津市議会の取組みを参考にさせてもらっている。

今からの西脇市議会には「政策サイクル」という言葉の導入がまず肝心だと考えている。特に難しい考え方ではなく、言われてみれば当たり前の取組みであり、実はすでに導入が決まっている「政策討論会」や「行政評価」などは、政策サイクルの一部分なのである。

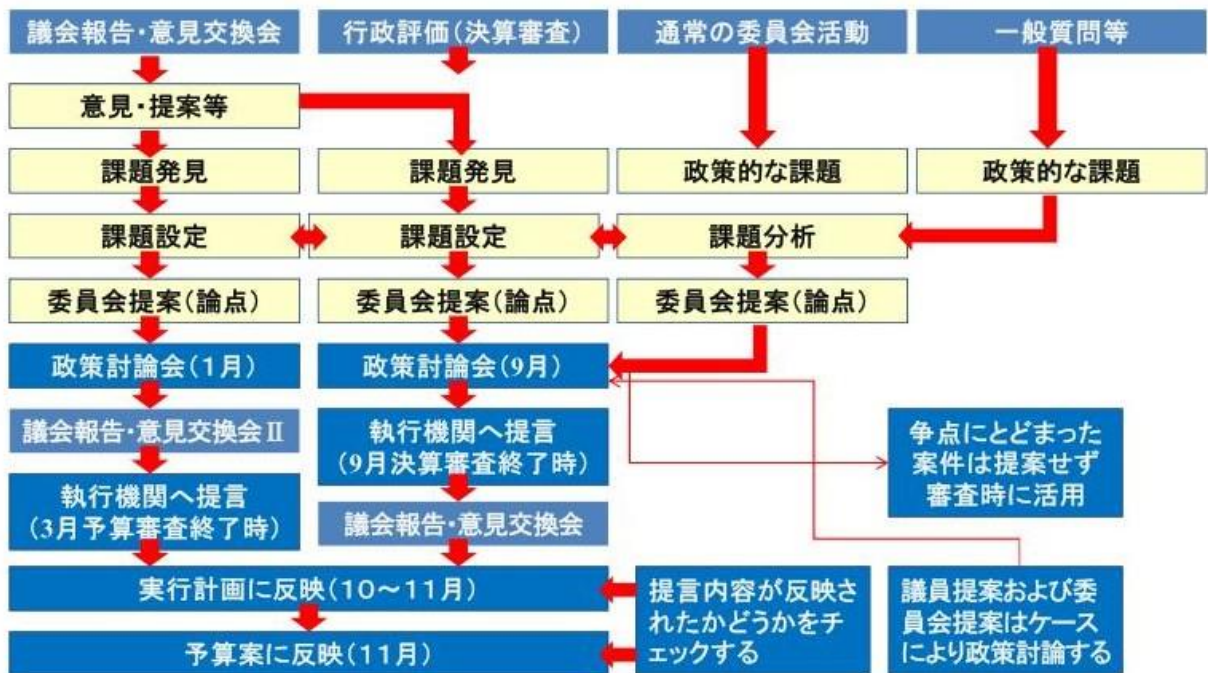
第 3 回研究会。

目の治療のため、やむなく欠席したが、聞いた話では、大津市議会の考え方と会津若松市議会の考え方が真っ向からぶつかり、大激論となったそうである。形勢は大津市議会にやや不利とのこと。大きな議会は大津市議会だけなので仕方ないのかもしれない。10 月 25 日の第 4 回研究会ではどうなるのか楽しみにしている。

町民との意見交換会と常任委員会活動を中心とした「芽室町議会・政策形成サイクル」(第8回議員協議会3/25提示)



「年間2サイクルによる芽室町議会・政策形成サイクル」

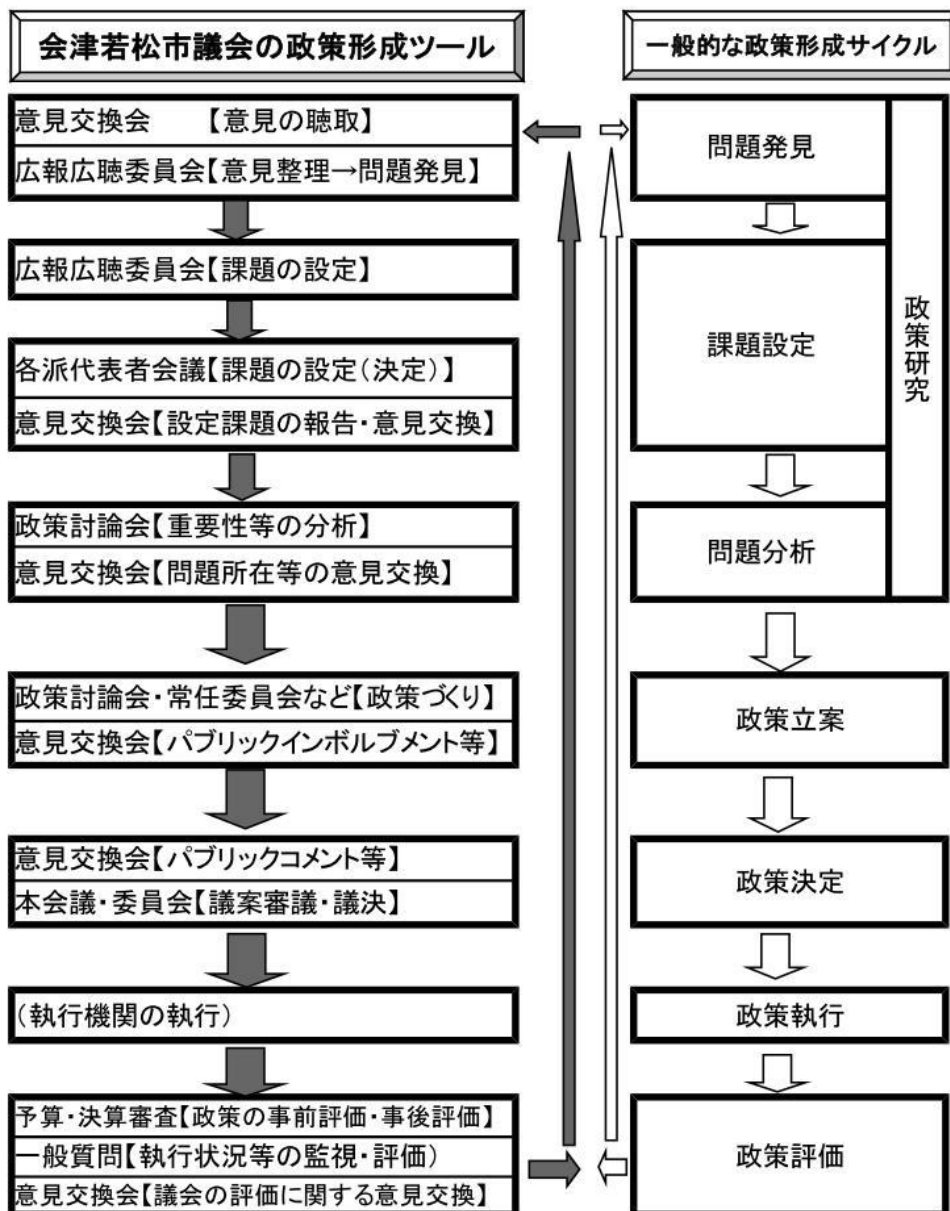


Ⅲ 政策形成サイクル（総論）

1 政策形成サイクルの基本フレーム

政策形成サイクルは、市民との意見交換会を起点とし、そこで頂戴した意見については、議会が有するさまざまな個別の意思を一般化・統合化していくという機能を踏まえ、数多くの意見から帰納法的に課題を設定し、市民意見・要望に応えようとするモデルである。（図表4）

図表4 政策形成サイクルにおける主要ツールの位置付け



予算決算委員会の政策サイクルのイメージ

【目的】 適切な団体意思の決定、地域経営根幹への適切な関与を行うため、予算審査と決算審査を充実化・精緻化するとともに、予算審査と決算審査を有機的に連動させるものとする。

【メモ ① 政策・施策を評価する】
一般的な事務事業評価、事業仕分けとは異なり、「適切な団体意思の決定、地域経営根幹への適切な関与を行う」ものとして、政策・施策を主な評価対象としている。政策手段(事務事業)の改廃は、政策目的の抜本的な修正には至らないとの認識。また、政策・施策を評価するためには、事前準備が肝要。準備会は、政策のインキュベーション機能を有する。

政策のたまご

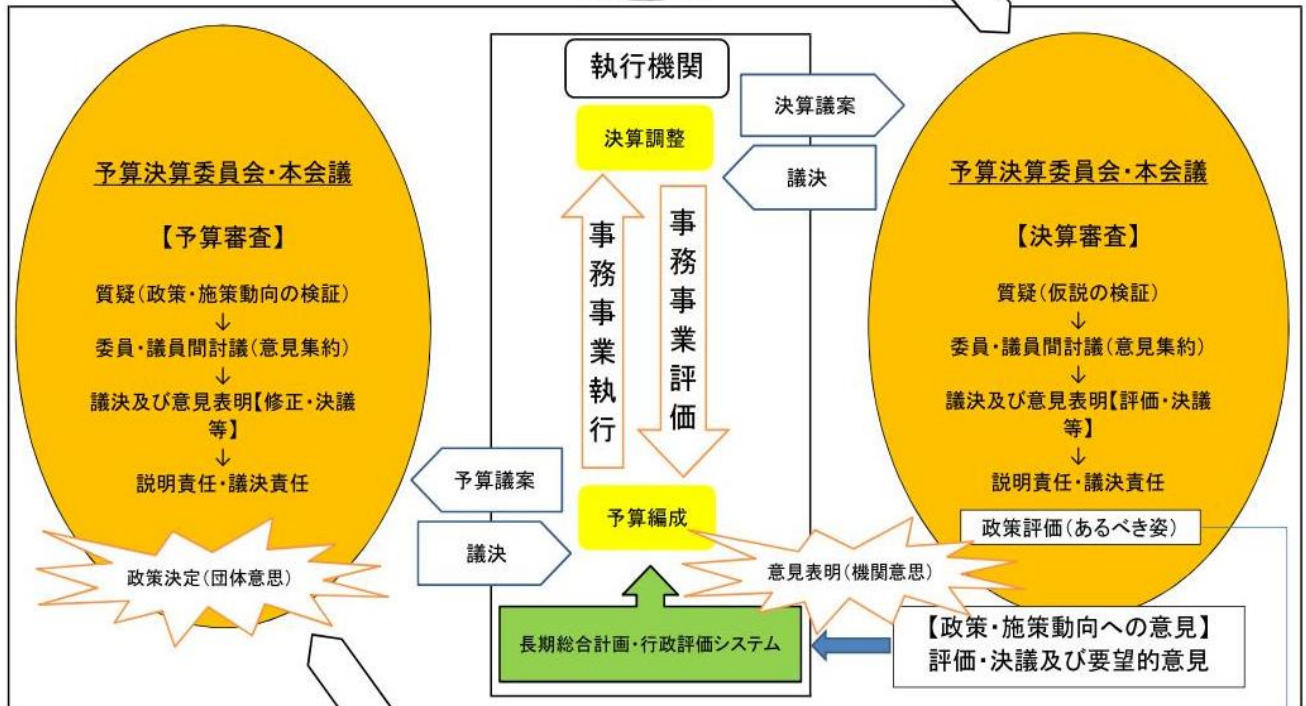
予算審査決算審査準備会

【決算審査準備】

問題発見
↓
課題設定
↓
問題分析
↓
委員間討議
↓
評価準備
【仮説作成】

【住民の意思】
市民との意見交換会
議員活動・会派活動のヒアリング 等

執行機関とは異なる視点から住民ニーズをキャッチアップ



【住民の意思】
市民との意見交換会
議員活動・会派活動のヒアリング 等

執行機関とは異なり、執行を前提とした思考ではなく、「そもそも住民の福祉のためには」との思考で立案

政策のインキュベイト

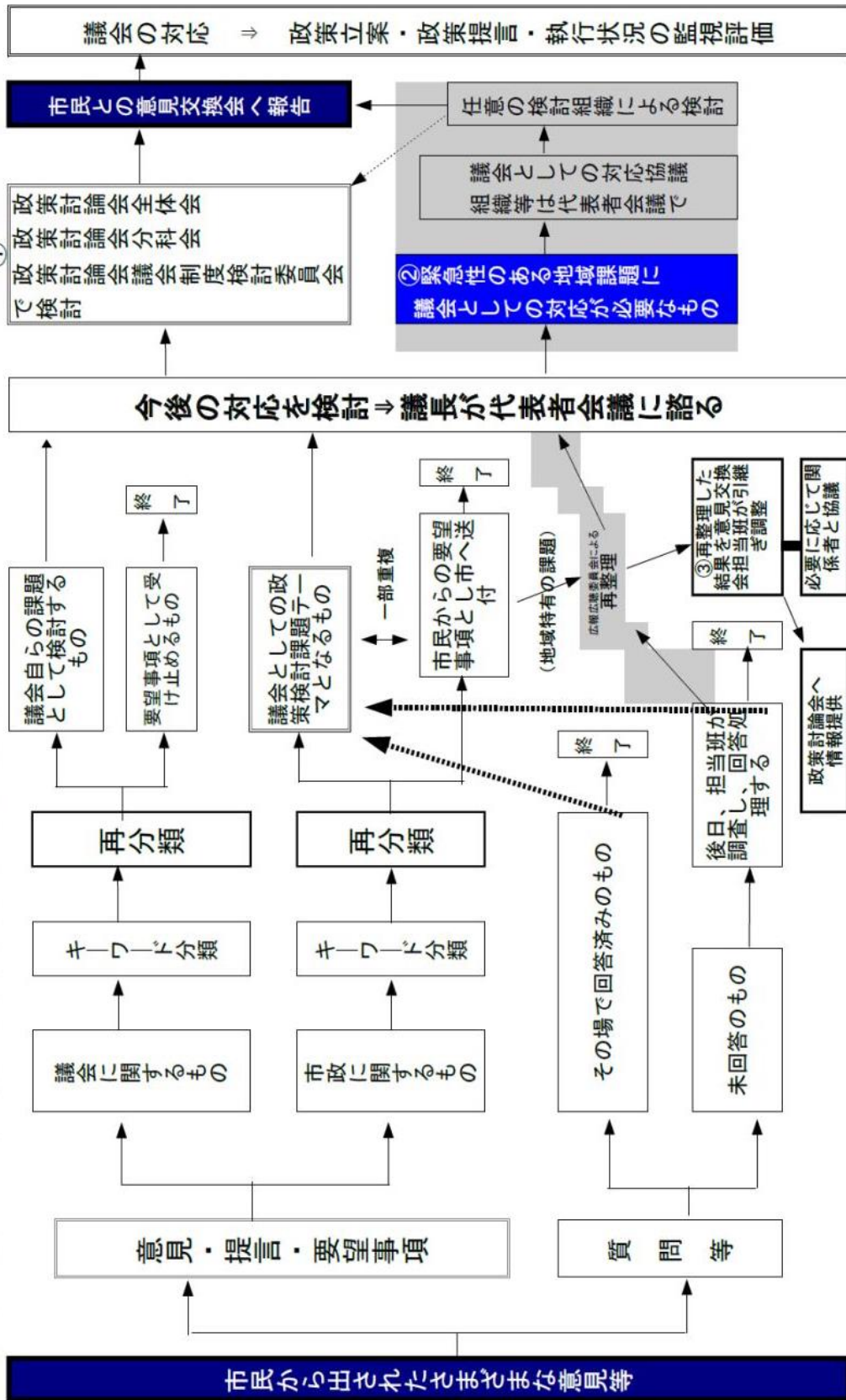
予算審査決算審査準備会

【予算審査準備】

政策評価(あるべき姿)
↓
委員間討議
↓
政策立案
↓
議会からの政策形成

【メモ ② 議会からの政策形成】
執行機関の行政情報を活用しながらも、住民意見を踏まえ、議会として市の政策・施策のあるべき姿をゼロベースで考える。単に執行機関の事務を評価するのではなく、議会としての対案を持つ。たゆまず執行機関と議論を重ね、政策決定(団体意思)を行っていく。適切な機関競争主義が住民の福祉に適うとの認識。また、政策の蓄積は、議会が総合計画など自治体の根幹をなす方針を決定する際の力になるとの認識。

(参考) 市民との意見交換会での意見、提言、要望等の分類イメージ



① 政策討論会で対応が必要なもの...あくまで市民との意見交換会で頂いた意見に1つずつ応えるのではなく、様々な意見の中から市政の問題点を発見し、それを一般化してテーマ課題を設定し、調査・分析をした上で、全市民的な政策づくりに取り込むもの。例) 10の政策課題

② 緊急性のある地域課題であり対応が必要なもの...地域の長年の課題であり、また市当局においても長年の政策課題であり、淡路地区水資源問題等当該問題の解決が喫緊の課題であるもの。例) 淡路地区水資源問題

③ 意見交換会担当班が頂いた意見に1つずつ応えることが望ましい個別課題であるもの。例) 道路陥没対応等



※ 政策形成サイクル